

sizen no nakade kosodate siyou

野外保育

森の子

since 2002
MORI NO KO

2004.早春号

見渡す限り真っ白だった森の子の雪景色も、いつのまにか姿を消しました。森の子にも『ゆきどけばあさん』がやってきたんですね。久しぶりの焚き火に夢中になったり、どろんこでケーキを作ったり、遊びに夢中になって駆け回っている元気な子供たちです。



～いっちゃんの旅立ちの日 3月20日 卒園式～

体の芯まできゅっ・・・と冷たくなるような、3月にしては寒い朝でした。今にも雪が降り出しそうな、そんな空の下、いっちゃんこと、K.Iさんの卒園式が行われました。この日が来るまでは、晴れたらいいのになあ、、、なんて思っていました。白く静かに静かに冴えた空気は、森の子の一年の終わりと卒園児の新たな旅立ちをいっそう厳かに感じさせ、かえって森の子の卒園式らしくなったように感じました。

今年度たった一人の年長さんとして、いつもみんなを引っ張ってくれた、いっちゃん。みんなにとって頼りになる特別な存在でした。いっちゃんの卒園式に向けて、依田先生と子供達（お母さん達もね）は、歌の練習をしてきました。練習風景を見ただけで、すでに泣いてしまったお母さんも何人もいます。当日だけでなく、ずっと思ってきた、そんな想いが詰まった式でした。

天使の羽がついた椅子につき、Tさんのフルートの伴奏で『ぼくたちのうた』を歌いました。(子供達のいつもと違う緊張が伝わってきます。) そして、いっちゃんが自分で紙を漉いて作った卒園証書の授与。

この後、いっちゃんがみんなに歌を歌う番なのですが、いっちゃんは朝から歌いたくない、、、と、言っていたそうです。でも、さすが、いっちゃん。一生懸命歌ってくれました。歌い終わった後の、はにかんだ笑顔はなかなか忘れられません。そんないっちゃんからお母さんへ、感謝の花束が手渡されました。

続いて、年中・年長さんに進級する園児もそれぞれのお母さんに手渡しました。「おかあさん、ありがと。」

恥ずかしがりながら花を渡す我が子が、まぶしく見えました。きっと、どのお母さんもドキドキしたでしょうね。お母さん達からの歌、みんなでの歌の後、大きな輪になって、一言ずつお話しをしました。一人ずつ白い息をはきながら想いを伝え、依田先生に花束を渡しました。

- 子供達を見守ってくださって、ありがとう、、、 -



友達になるために ヒトは出会うんだよ
どこのどんなヒトとも きっと分かり合えるさ
今まで出会ったたくさんの 君と君と君と君と君と君と君と
これから出会うたくさんの 君と君と君と 君と友達

いっちゃん 卒園 おめでとう。



森の子の卒園式の様子が、タウン情報（2004年3月24日発行）に掲載されました。
町の方々に、森の子の活動を知っていただくきっかけになれば幸いです。

卒園証書を受け取るいずみさんと見守る仲間、保護者たち



森の子 巣立ちの日

穂高町豊里のペンションシャロムヒュッテを拠点に野外自主保育を行う森の子（狩野なぎら代表・11人）は20日、卒園式にあたる「巣立ちの日」を開き、来月小学校に入学する卒園児1人を祝い送り出した。

森の一角にいすを並べ在園児と父母が見守る中、保育士の依田敬子さんと卒園児の狩野いずみさん（6・穂高町）が入場。お母さんのフルート伴奏に合わせ全員で歌を

歌った。いずみさんは「森の中で元気に遊び、たぐさんの発見をしました」などと記した卒園証書を受け取って少しはにかみ「ありがとう」。

「あなたと出会えたことは先生の宝物。小学生になっても思ったとおりに進んでいって」と依田さんの励ましに目を輝かせた。

父母も一緒に歌を歌ったり、園児からお母さんたちへ感謝の花束を渡すなど、温かな手作り卒園式となった。いずみさんの母親なぎらさんは「最初は母親の後を追って泣いた子だったが森の中でやりたいことを見つけやっていたいながら、自信を

持てたようで良かった」と目を潤ませた。発足2年目の森の子は計4人の卒園児を見送り、4月には4、5歳児合わせは江藤さん82・5人が入園し、15人になるという。見学など問い合わせは江藤さん ☎82・0393



森の子の卒園式

かけ声がこだまする、森の子名物おもちつき！

2月26日(木)森の子で今年度2回目のお餅つきが行われました。ちびっ子会(週1回の親子のお散歩の会)の皆さんと一緒にしました。今回は、杵を持ってつくだけでなく、お餅を返したり、きな粉をつけたりすることも興味を持って、経験しました。(杵がドシ～ンと落ちるのを見て怖がる子もいましたが、手についたお餅やきな粉を楽しそうに味わう姿も多々見られました)

わたしも初めて、もち米を蒸かすところから、杵を持ってついたり、返したり、みなさんにコツを教えていただきながら貴重な体験をさせてもらいました。きな粉餅、醤油のり餅、伸し餅などたくさん作って、お昼においしく頂きました。子供たちもおかわりをたくさんして、おなかいっぱいになりました。



ちびっ子会のお友達に来る前は、おもちゃを貸してあげないと言う子もいましたが、いざ、一緒になってみると、自分達より小さい子の世話をしあげようとする姿が見られ、来年度森の子の仲間になる子とも、すっかり仲良しになりました。



つい昨日たくやの(森の子に行っていない)お友達が遊びに来て、何気ない二人の会話が興味深かったので、追記します。

友だち「森の子っておもしろいの？」　たくや「うん！！ほんと楽しいんだよね～～～」
森の子に行くようになって本当によかったなと思った母でした。



since 2008

MORI NO KO 春風はこぶ、琴の音色のひなまつり。

今日は森の子のひなまつり。そしてお当番の日です。バタバタと家事を済ませて、空のお弁当箱を2つリュックにつめて、いざ出発。森の子のお部屋に着くと、みんなの作ったおひな様が迎えてくれました。今日の主役です。今日は何をすればいいのかなあ、とちょっと緊張してエプロンをしめると、先生から今日の説明。何とお米の準備からちらし寿司の具の準備、手作りのひし餅におすましの具の用意まで、何一つ欠けることなく先生が用意してくださっていたのです。当番がすることはほとんど無いという状態でした。本当にありがたいことです。



少し外遊びしてから子供達と一緒にごちそうの仕上げです。炊けたご飯にお酢をいれる子、うちわであおぐ子、具を混ぜる子、たくわんを切る子(食べる子・・・)、ほうれん草を切る子・・・みんな一生懸命。そのうちカラコロン、とドアの音がして、皆が楽しみに待っていたU.Yちゃん、K.Rちゃん、K.Yくんがやってきました。久々に全員そろった森の子達、なにより嬉しいプレゼントです。



さあ、ひなまつり会のはじまり、はじまり。まず子供達がこのところ毎朝うたってきた『うれしいひなまつり』のうたを歌います。4番までみんなよく覚えたね。お口も大きく開いていたよ。そして依田さんが持ってきてくれたお琴!の演奏が始まりました。「ここは料亭?」「お正月?」という声が飛ぶ中、お琴に合わせてお母さん達(りんちゃん、のんちゃん、私)の自信なさげな歌、『花嫁人形』、『さくら』、『うさぎ』が披露されました。そのあと子供達有志による『かえるのうた』の輪唱。そして待ちに待ったごちそうタイムです。まず、甘酒を一口ずつ。ちらし寿司は、赤い梅漬けや黄色いたくわんに緑の菜花が散ってそれはおいしそう。具の中の花形にんじんに先生



の愛情を感じました。おすましはお花のお麩にほうれんそう、ゆずが添えられて本格的です。又ほんのりした甘さの手作りひしもちはお代わりする子もたくさんいました。食後にはU.Yちゃんからこんぺいとうとプレゼント、K.Rちゃんからは手作りクッキーがくばられて、おおはしゃぎの森の子達。全員そろった嬉しさがみんなの顔に表れていたよ。

こうして先生の細やかな心配りと、前日夜遅くまでかかって下さった準備のおかげで、無事にあたたかいひなまつり会が終わりました。洗い物とお掃除をして、今日のお当番も終了。来年は準備をお手伝いしたいなあ、と思いつつT.Mのおひな様を連れて一緒に家に帰りました。



記事・たっちゃん

森の子の活動日記をごらんくださいね。

<http://www.ultraman.gr.jp/morinoko/2004.3mori.htm>

3月16日。絵本の「からすのぱんやさんごっこ」に刺激を受けた森の子たち、みんなで焼き火パンを作ることになりました。始まる前は、誰がパン屋さん、誰が買いに来る人が決めていたのに、パン生地を竹棒に巻きつけ、焼き火にかざす頃には、ごっこ遊びもすっかり忘れて、おなかがすいてたまらなくなった子供たち。

今年度最後の焼き火パンは、胡桃や干しぶどう、チョコレートを入れて「びっくりパン」にしたり、手作りのいちごジャムやりんごジャムをつけたりしてみました。かぼちゃのスープと一緒に焼きたてのパン

を食べるのは最高のごちそうでした。(しかも今日は天然酵母のパン!チョコもジャムも砂糖不使用のものです)



お昼にビックリ!? 事件がありました。みんなでパンを美味しく食べていると、にわとりのコッコが「何、美味しそうなもの食べてんの」って感じで近づいてきて、本当にあつというまに、E.Sちゃんが食べようと手に持っていたパンを、くちばしでかささらってしまったのです。これには周りにいた大人もびっくり。依田先生がいつになく怖い声で、「こら、コッコ!」と追い回したところ、今度は子供たちがびっくり。M.T君が「依田さんが怒ったのでびっくりした」と言っていました。

子供たちは、その後われもわれもとコッコにパンをあげて喜んでました。子供の手から食べ物を奪い、テーブルにもものっかってくるとは「けしからんコッコ」と考える大人と、「おなかがすいてかわいそうなコッコ」と考える子供。受け止め方が違うんですね。コッコは、その味をよっぽど気に入ったようで、依田先生とT.Dちゃんがハコベを取ってきてあげようとしても、見向きもせず、ひたすらパンを求めてテーブルから離れなくなっていました。

子供たちとはいうと、竹棒にこびりついたパンの残りをT.Mちゃんが食べ始めると、K.Iちゃんも、T.Oちゃんも美味しく食べて始め、棒をすっかりきれいにしてくれました。



この日の朝、依田先生とT.Dちゃんが春一番のふきのとうを見つけて大興奮。

暖かい春の日は、焼き火の火で暑いぐらいの一日となりました。

記事・まつださん

森の子だより編集室では、皆様からのご意見、ご要望、寄稿、公告掲載を歓迎します。「子供がこんな面白い絵を描いたんだ」、「小説でも連載しちゃおうかな」、「こんなお店みつけたよ」、「ちょっとこれ、載せてほしいんだけど」・・・などなど何でも結構です。誰でも気軽に参加できる紙面作りを目指しています。スタッフ一同お待ちしております。

編集後記

なにもないところから始まった新聞作り。りんちゃん
んと試行錯誤を重ね、やっとここまでたどりつく
ことができました。森の子の一年間は毎日がイベント
の連続で、私自身も楽しみながら編集作業に携わる
ことができました。ご協力くださった方々には心よ
り感謝いたします。どうもありがとうございました。